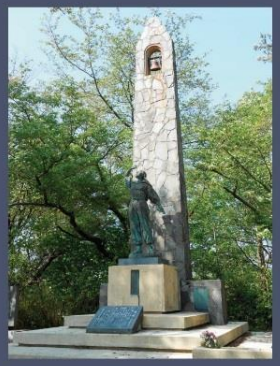
犠牲者の供養と平和への願い

終戦後、工廠は解散し、生活していくことが困難な時代でありながらも、遺族や工廠関係者により様々な犠牲者の供養が行われました。遺族や各職域、学徒動員にかかわる学校などにより次々と供養塔などが建立され、昭和21（1946）年9月23日には、犠牲となった工廠従業員の方々の氏名を台座に刻んだ供養塔が、豊川海軍工廠報国団により豊川稲荷の裏手に建立されました。昭和32（1957）年には十三回忌を契機に空襲の日付である8月7日を由来とする「八七会」が結成され、慰霊祭や供養塔の清掃作業をはじめ様々な活動を行ってきました。

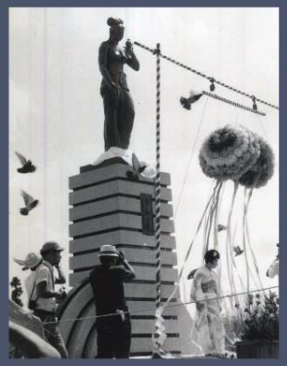
また、豊川から離れた金沢市では石川県出身の女子挺身隊員らにより豊友会が結成され、昭和37（1962）年に同県出身の女子挺身隊員犠牲者52名の供養のため金沢市の卯辰山に「殉難おとめの像」が建立されました。この事業に奔走した辻豊次氏は、豊川市にも二度と戦争を起こさない平和のシンボルとして平和の像建立を提唱し、昭和40（1965）年8月7日に八七会により「平和の像」が豊川公園の一角に建立されました。

供養塔

諏訪墓地
第二工員養成所の跡地にあり、遺族や各職域、学徒動員にかかわる学校などにより建立された多くの供養塔などがあります。



殉難おとめの像（金沢市）



平和の像
金沢市の殉難おとめの像と同じ矩幸成氏（金沢美術工芸大学教授）の制作です。写真は昭和40年8月7日の除幕式の様子。

八七会六十年のあゆみ

時の流れには逆らえず早や六十年、八七会会員の皆様、ご遺族様には、終戦から六十年にわたり、影になり、日向になり、八七会にご協力頂きました事を、ここに改めて感謝申し上げます。・・・・

昭和四十年八月七日新聞記事

今日除幕式　豊川市の平和の像
再び戦争繰り返すまじ
幾多の悲願をこめて実現

体験者の証言

殉難おとめの像の除幕式の八月七日は、夏雲こそあれ、強い日ざしがさんさんとふりそそぐ絶好のよい天気でした。豊川爆撃のあの日も同じでした。・・・・